

規模拡大と輪作体系の確立によるブロッコリーの大規模生産 ～野村 秀幸氏〔真狩村〕～

経営体の概要

事業実施前：平成17年

基幹作物：ばれいしょ、大豆、ゆり根、だいこん、
にんじん、スイートコーン

経営面積：17.0ha

事業実施後：令和3年

基幹作物：ばれいしょ、大豆、ゆり根、にんじん、
ブロッコリー、かぼちゃ、スイートコーン

経営面積：60.0ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

本事業により、1団地0.6ha程度と小区画・不整形の農地が、1団地4ha程度の大区画かつ一定勾配のほ場となり、ほ場条件の改善と農作業の効率化が可能となったことに加え、周辺農地を継承することで経営規模を3.5倍に拡大した。また、経営規模の拡大に伴い、新規にブロッコリー、かぼちゃ、緑肥を導入することで輪作体系を確立した。新たに導入したブロッコリーは、独自の販路開拓と新たな労働力確保を進め大規模生産を実現した。

営農改善のポイント

①作物の変化

大規模での輪作体系を確立するため、ばれいしょ、大豆、にんじん、ゆり根の作付拡大と、ブロッコリー、かぼちゃ、緑肥を新たに導入する一方、だいこんに替え、近年需要の多いブロッコリー栽培を優先することで、現在16haを作付けしている。

②省力化

トラクターに自動操舵装置を導入したことにより、熟練度に関係なく常時雇用者が機械操作を行うことが可能となり、整地、播種・植付、畝切、心土破碎などの作業は、直線移動作業の延長増による旋回回数の減等により、作業時間が3割程軽減した。

また、ほ場面積が拡大し、分散も解消したことから、移動時間が短縮し、営農作業の効率化が図られた。

③規模拡大・土地利用調整

基盤整備による作業の効率化及びほ場の分散の解消により、地域内の離農跡地を継承して経営規模を3.5倍程度に拡大している。

借地は、以前は自宅から遠く離れた農地を借りていたが、事業の進捗に応じて自宅周辺の整備済農地に集積を進めた。



ブロッコリー収穫



ゆり根と緑肥間の除草
(ロータリー掛け)



小区画の排水切替で大区画化

事業概要

事業種：国営農地再編整備事業

関係市町：北海道虻田郡真狩村

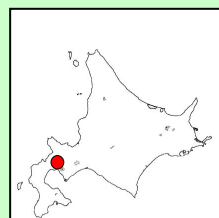
受益面積：1,028ha

事業期間：平成19年度～平成27年度

事業目的：区画整理・農地造成

主要工事：区画整理987ha、農地造成5ha、
道路4.8km

位置図（北海道）



真狩地区

<問い合わせ先>

北海道開発局 農業水産部

農業計画課 計画第1係

電話：011-709-2311

(内線5522)

(令和3年度調査時点)